



タイのバンコク市内は、スカイトレイン(BTS)や地下鉄、路線バスが主要な公共交通機関だが、主要幹線道路は渋滞が激しく社会問題になっている。雨が降る夕方、車の移動で3^分先まで1時間を経過したこともある。世界の交通情報を発信するオランダのサイト「TomTom」が、2020年度の世界で最も渋滞の激しい都市ランキングを発表した。コロナ禍でやや交通量が減ったとはいえ、バンコクは10位(トップはロシアのモスクワ)とトップ10に入った。

そんな渋滞の街にあって渋滞知らずの公共交通機関が、運河を進む「ボート」と呼ばれる木造船。

タイ・バンコクの交通事情

バンコク中心部を東西に流れるセンセーブ運河は全長15^{キロ}で、20を超える船着場がある。ローカル色が漂う木造船は、地元の人たちの買い物や通勤通学の足として利用されている。

市中心部から東部のショッピングモールまでの20分間、木造船に乗ってみた。水上を走るだけあって思った以上に涼しく、船同士がすれ違ったり波が立ち、船が大きく揺れるスリルも感じる。料金は16^{バーツ}(50^円)と電車よりも安い。運河には生活排水が流れ込み、お世辞にもきれいとは言えないが、思っほどごみはなく、臭いも気にするほどではなかった。運河沿いの景色を眺めると、大きな屋敷があれば、スラム街もある。さ

運河木造船、渋滞知らず

らに学校やお寺も。初めて見る景色だけに新鮮だった。あちこちの



タイのバンコク市内を流れるチャオプラヤ川

運河沿いの壁には、落書きというよりは芸術作品のような壁画を見ることが出来る。各所には散策道が整備され、小道に沿って花のプランターが設置されている。市民が手を加え、運河を美しくしようとする努力が感じられる。

高度成長期の日本は公害により環境が汚染された。バンコクの運河は生活排水の垂れ流しが原因で汚染されている。浄化槽の整備が進み、ごみを運河に捨てる行為がなくなれば、人の手で再生できるのではないだろうか。大型観光船やクルーズ船はチャオプラヤ川で観光客を待っている。一方、運河のローカル線は今日も多くの人々の暮らしをサポートしている。それぞれ船の役割は違いますが、共に人を乗せて動き出せば、バンコクはコロナ前のにぎわいを取り戻すだろう。(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋孝孝)